

珍奇植物 *Subularia aquatica* L. (アカマロサウ)

大井次三郎

吉井良三

今夏、田中阿歌磨子の北千島探險隊と一所に、北千島三島の植物を採集して廻つたとき、幌筵島の南端に近い武蔵灣の漁場の附近の、水の乾れて了つた泥沼の上に、一見ツメクサの出來の悪いものゝやうな姿の小草がクツ付くやうに生えて居た。よく見ると、Capsule の様子など、十字科のものらしいので、これはこれとはばかり此の小さい奴に三十分餘を費して集めて歸つた。この植物は、その後同島の播鉢灣に於ても發見したが、此處でも漁場の後方の、沼が用水のために乾上つた處に生えて居た。

調べて見ると、之は標題の如き學名を有するもので、無莖で針狀根出葉を有するが、全長は花序を含めて一センチばかり、恐らくは本邦産のものゝ内で最小の顯花植物と思はれる。

今までの産地は、アジヤでは、カムチャツカ半島、及びトムスク地方で、北千島は第三の産地である。世界における分布は、ヨーロッパでは廣くスカンデナヴィアの北端よりピレネー山脈に及び、北米大陸では、アラスカ・ラブラドルより、カリフォルニアにまで及んで居るが、元來の性質は極地性である。

和名は種名を考へ、同時に子爵に Dedicate する意味に於て、アカマロサウとしたい。

Subularia aquatica LINN. Spec. Plant. (1753) 642 ; LINDM. Svensk Fanerogamfl. (1918) 274 ; HULTÉN Flor. Kamtch. 2 (1928) 145.—Hab. *Northern Kuriles* ; ins. Paramushir : Raisha (J. OHWI et R. YOSHII n. 6065) ; Suribachi (J. OHWI et R. YOSHII n. 4739).—New to the Flora of Japan! (J. OHWI et R. YOSHII).

ヌマガヤとヌマドゼウツナギ

大井次三郎

樺太で初め記載された *Scolochloa spiculosa* FR. SCHM. はヌマガヤでなくてドゼウツナギの類である事を發見したので私は東京植物學雜誌 45 卷 382 頁 (1931) で *Glyceria spiculosa* OHWI と變更しておいた。所がその後露西亞の禾木専門家 ROSHEVITZ から氏の Reprint を貰つたが、それによると既に 1929 年に同じ事實を發見して *Glyceria spiculosa* ROSHEV. と改めて居るので私の組合せは全く不用に歸してしまつ

た。従つてヌマドゼウツナギには *Glyceria spiculosa* ROSHEV. が正しい。此の理由からして内地のヌマガヤに *spiculosa* の種名は用ふる事が出来ぬのでやはり従來の *japonica* の名に逆もどりせねばならなくなつてしまつた。

ホソバヤブラン

大井次三郎

先頃臺灣に旅行したとき臺北の近くにある七星山に登つた事がある。そのときに附近の植物數種を生きたまゝで京都に送り、當教室で栽培して居たものゝ内に内地のヒメヤブランに似て葉が細長く、花序が長くて花數も多い違つたものがあつた。本年開花したので新種として記載する。

Liriope angustissima OHWI sp. nov. — Perennis, foliis sesqui-bipedalibus atrovirentibus rigidulis angustissime linearibus 1.5–2.5 mm latis confertis, apice sensim angustatis, supra elevato-tricostatis, subtus 5–8-nervis, margine superne scaberulis, basi vix angustatis, scapo ex foliorum fasciculo solitario ca. pedali erecto tenui compresso-ancipiti laevi 1 mm paulo latiore nudo, spica 5–10 cm longa densiuscule pluriflora, axi angulato laevi, bracteis late ovatis hyalinis ca. 1.5 mm longis sordide albidis, e dorso viridi aristatis, floribus 2–5-nis patentibus, pedicello 2–3 mm longo gracili, supra medium articulato, basi bracteola orbiculata membranacea uninervi praedito, perianthii segmentis 6, patentibus ellipticis ca. 2 mm longis membranaceis sordide azureis obsolete uninervis, margine alboscariosis, apice obtusissimis, staminibus 6, filamentis pallide azureis subulatis 1 mm longis globosis, antheris flavis glabris oblongis quam filamenta parum brevioribus, ovario depresso globoso, stylo staminibus aequilongo lineari tereti sursum curvato, stigmatibus truncato. — Hab. *Formosa*: m. Shichi-seizan in Taihokushu (J. OHWI, cultivated in the Botanical Institute, Kyoto Imper. Univers.).

家菊の原種に關する植物分類學者の見解

北村四郎

家菊の原種に關しては古來多くの見解があり、近年に於てもこの問題は興味を持たれ、この方面に貴重な研究が追加された。

こゝに述べるのは分類學者の諸説で、主として LINNAEUS氏以後現在に至るまでの